第2課 受肉 (2018.7.15)

◎賛美(一同) : 韓日36番、韓日46番

◎信仰告白(一同) :使徒信条　　◎御言葉朗読(一同) :第一ヨハネ1章1～2節

◎本文朗読　◎主の祈り(一同) : 最後に

◎ 今日のマナ

キリスト教は神様であられる御子が人となられた受肉を信じます。私たちは受肉を通して愛と公義の神様を発見し、救いはただ神様が成されるという事実を知ることができます。受肉はキリスト教の独特で偉大な信仰であり教会が必ず守らなくてはならない信条です。

**1. 受肉, 人として来られた神様**

受肉とは三位一体の神様の第2位格である御子が完全な神性を持たれたまま完全な人になられたことを意味します。神様であられるイエス様が被造物である人となられた受肉を通して私たちはイエス様の謙遜を発見することができます。(ピリピ2：7)　ヨハネの福音書1章14節は“ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。”と言っているように、聖書は受肉について明らかに語っています(コロサイ2：9)。またイエス様がおとめマリヤより生まれた出来事は旧約の預言の成就であり(イザヤ7：14、9：6～7)受肉の重要な根拠となります(マタイ1；18～25)。

受肉されたイエス様は人間の本性である霊肉魂すべてを持たれ、普遍的な人間の実存をすべて経験されました。だからイエス様は人間と同じように空腹を覚えられ(マタイ4：2)、疲労と渇き(ヨハネ4：7)、喜怒哀楽(マタイ9：36、マルコ14：33、ルカ19：41)などを感じられ、罪の誘惑を受けられました(マタイ4：1～11、へブル2：18)。共に人間の家系から生れられ(マタイ1：1)、成長過程を経られ(ルカ2：40)、人間のように死を迎えられました(マタイ27：50)。しかし受肉されたイエス様は神様であられるので、聖、愛、義など神的性質を完全に持っておられ、全知全能、偏在などの神的属性を自ら排除されました。

**2. 望ましい受肉信仰**

受肉されたイエス様は神様の本性と人間の本性すべてを持っておられます。これは人間の理性では完全に理解できない神様の神秘でキリスト教の歴史の間、多くの信仰の先祖たちが受肉を理解するために努力してきました。望ましい受肉信仰は次のようです。

一番目、受肉されたイエス様は‘完全な神性’と‘完全な人性’を持っておられます。受肉は神様の本性の内の一部と人間の本性の内の一部が出会って成されたものではありません。ある者は受肉が神的たましいと人間の本性の一部が肉体と結合したものだと主張しますが、これは誤った見解です。イエス様は神性のすべてと人性の全てを持っておられます。

二番目、受肉されたイエス様はお一方です。受肉は完全な神性と完全な人性の出会いであってもイエス様は‘お一方’として存在されます。言い換えれば、完全に区別される二つの本性が出会ったが、二人ではなく一人として存在されるということです。‘二つの本性が出会って一人として成る’という事実は受肉の神秘です。

 三番目、受肉されたイエス様は完全な神性と完全な人性が出会い第3の存在が生まれたわけではありません。言い換えれば、受肉は神性と人性が出会い一人になられましたが、この存在が神様でもなく人間でもない新しい存在ではないということです。

整理すると、望ましい受肉信仰は‘完全な神性と完全な人性を持っておられるが一つの人格として存在される神様であり人であられるイエス様’を信じることです。しかし受肉に対するこのような研究と理解も重要ですが、もっと重要なことは受肉されたイエス様の恵みを体験することです。聖書は受肉に対する知的な探求ではなく病人を癒され、悪霊を追い出し、みことばを教えられ、十字架に架かりよみがえられたイエス様を語っているからです。従って、私たちは人として来られ、この地で生きられた神様の御子が私たちに与えてくださった恵みを体験しなくてはなりません。聖霊の働きを通して病の癒しを受け、霊的に自由を得て、みことばによって新しくなり、救いの感激を体験することを願います。このような恵みの体験が私たちを受肉に対する理解を超えて信仰へと導いてくれるでしょう。

**3. 受肉の意義**

一つ目、受肉を通して人間の救いが成就されました。アダムの堕落によって全ての人類は原罪の下に置かれるようになり、救いが必要となりました。しかし、人間自らの力では決して救いの問題を解決することができませんでした。なぜなら罪人は罪人を救うことができないからです。人間の救いのためには人間以外の誰か、すなわち罪のない存在が必要でした。だから罪のない神の御子が人となって、すなわち受肉されてこの地に来られました。受肉されたイエス様は人であるので罪に対する責任はありましたが、神様であられるので罪から自由であって、罪を犯さないことができました。何の罪のなか神様の御子であり人であるイエス様が人類の全ての罪を背負われ、十字架で死なれることで、救いを成就されました。この驚く救いの働きはイエス様が神様であられながら、人間であったから可能でした。

また受肉を通した救いは神様の公義と愛を見せてくれました。受肉されたイエス様は神様であられたので、十字架に架かられるまでにみことばに完全に従順することで神様の公義を満たされ、ご自身の体を犠牲のいけにえとして捧げることで神様の愛を立証されました。

二つ目、受肉を通して神様が願われる人生が何であるかを知ることができます。受肉は神様が人となられ人間と共にこの地に生きられた出来事です。言い換えれば、唯一の真理である神様が真理の人生を自ら見せてくださったのです。したがって私たちは受肉されたイエス様の人生を通して神様の心に完全にふさわしい人生を発見することができます。イエス様は聖霊様と共に歩まれ、みことばに全的に従順され、福音を伝えられ、御力を行われ、十字架に架かり、死なれ人間を愛されました。私たちはこのようなイエス様の足跡を従うことで、すなわち‘小さなイエスの人生’によって神様が願われるまことの人間の姿を回復することができます。

◎ マナの要約

<受肉、人として来られた神様>

1. 受肉とは神様である御子が人となられたことです。

2.聖書は様々な箇所を通して受肉を語っています。

3. 受肉されたイエス様は人間の全ての本性を持ち人間の人生を生きられました。

<望ましい受肉信仰>

1. イエス様は完全な神性と完全な人性を持っておられますが一つの人格として存在されます。

2. 受肉されたイエス様が与えてくださった恵みを聖霊の御業を通して体験する時、受肉に対する信仰が生まれます。

<受肉の意義>

1. 神様は受肉されたイエス様を通して人間の救いを成就されました。

2. 神様は受肉されたイエス様を通してまことの人間の姿を見せてくださいました。

◎ 私の人生のマナ

<隣の人にあいさつ>

1. イエス様が与えられた恵みを体験しましょう。

2. 受肉されたイエス様を通して救われました。

3. 受肉されたイエス様に似て行きましょう。

<祈り>

1. イエス様が私たちのために与えられた恵みを体験するように祈りましょう。

2. イエス様が成された救いの感激によって充満になるように祈りましょう。

3. イエス様に似た人生を生きるように祈りましょう。

<とりなしの祈り>となりの人と祈りの課題を分かち合い共に祈りましょう。